

## 会 議 録

名 称	酒田市子ども・子育て会議（令和元年度第4回）	
内 容	○協議 （1）第2期子ども・子育て支援事業計画の策定について ①酒田市子ども・子育て支援事業計画（案）について ②酒田市子ども・子育て支援事業計画（案）【概要版】について	
日時・場所	令和2年1月16日（木）午前10時～・酒田市役所703会議室	
出席者	委 員	須田勉委員、石川雄一委員、石川正志委員、佐藤真紀委員、阿部勇委員、阿部幸子委員、齊藤公乃委員、石垣紀子委員、宮田浩一委員、加藤武雄委員、高橋利春委員、樋渡美千代委員、佐藤あゆみ委員、大滝晋介委員、白旗希実子委員、伊藤直子委員、庄司健委員
	事務局	健康福祉部長、福祉課長兼発達支援室長、健康課長、学校教育課長、子育て支援課長、子育て支援課保育主幹ほか
会議の結果	別紙のとおり	
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出欠席名簿</li> <li>・ 資料1 酒田市子ども・子育て支援事業計画（案）</li> <li>・ 資料2 酒田市子ども・子育て支援事業計画（案）【概要版】</li> </ul>	

## 令和元年度第4回 酒田市子ども・子育て会議

日時：令和2年1月16日（木）午前10時～

場所：酒田市役所703会議室

### ～ 1 開 会 ～

**小松課長補佐** 定刻となりましたので、令和元年度第4回酒田市子ども・子育て会議を始めさせていただきます。本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。暫時の間、司会進行を務めさせていただきます子育て支援課長補佐の小松と申します。よろしくお願いいたします。本日欠席の方をご報告いたします。酒田飽海PTA連合会 堀伸一様、公募委員 葉丸有希子様、連合山形酒田飽海地域協議会 鈴木渉様、以上3名の委員の方より欠席の連絡をいただいております。

本日は20名の委員中、17名のご出席をいただいております。酒田市子ども・子育て会議条例第7条第2項に「委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない」と定められておりますが、本日は定員数を満たしておりますことをご報告させていただきます。それではこれより、令和元年度第4回目の酒田市子ども・子育て会議を開会いたします。次第にしたがいまして進めさせていただきます。はじめに、健康福祉部長よりご挨拶申し上げます。

### ～ 2 健康福祉部長あいさつ ～

**健康福祉部長** 本日はお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。それから、少し遅くなりましたけれども、明けましておめでとうでございます。昨年は、子ども・子育て支援事業計画の策定といったことで、例年以上に会議の開催が多くなりました。皆さまからは、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。1月6日の仕事始めに、市長の新年のあいさつの中で、去年もそうでしたが、宝島社出版の「田舎暮らしの本」についての話がありまして、この中で酒田市が「シニア世代が住みたい田舎」部門で全国の第1位に輝いたといったような話がありました。総合でも4位となりまして、前年よりも順位が上がったといった状況でありました。ただ、「子育て世代が住みたい田舎」部門の方は、前年の4位から下がってしまったということでしたが、市長からは、子育て世代や若者世代にとっても住みよい町にしていきたい、がんばっていききたいといったような話がありました。そういった中で、平成30年の速報値で合計特殊出生率が先日発表されました。酒田市は、平成30年の合計特殊出生率が1.36といった状況で少し下がっております。県平均が1.48ということですので、県平均より少し下がっており、酒田市の昨年が1.42で今年が1.36ということで、この辺も先ほどの市長の言葉もありましたけれども、子育て世代、若者世代の施策に力を入れていきたい、一層がんばっていききたいと考えているところでございます。本日の会議につきまして、子ども・子育て支援事業計画の次期計画の

案、これまでご協議いただきました内容の全体をとりまとめたものを提出させていただいております。本日の協議を経まして、計画案について市民の皆さまなど広くからご意見をうかがうということで、次はパブリックコメントに進みたいと考えているところでございます。ぜひ、本日貴重なご意見を皆さま方からいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

**小松課長補佐** 資料の確認

これより、進行を白旗会長にお願いしたいと思います。それでは白旗会長どうぞよろしくお願いいたします。

### ～ 3 協 議 ～

**白旗会長** 白旗です。今年度もよろしく願いいたします。それでは、早速ですが議題の方に入りたいと思います。本日は、事業計画案の検討ということで、お一人おひとりからご意見を頂戴したいと思っておりますので、積極的なご発言をいただけましたら幸いです。それでは、(1) 第2期子ども・子育て支援事業計画の策定について、①酒田市子ども・子育て支援事業計画(案)について及び②酒田市子ども・子育て支援事業計画(案)概要版について、事務局から説明をお願いいたします。

**家庭支援係長** 資料の説明

**白旗会長** 酒田市子ども・子育て支援事業計画(案)について及び酒田市子ども・子育て支援事業計画(案)概要版について説明がございました。ご意見又はご質問などがあればお聞きしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

**宮田浩一委員** 事前に何件か質問を出しておりましたが、その中で、前回の資料の表の上に「酒田っ子すくすくプラン」とありますけれども、今回いただいた資料にはございませんので、最初にこれを確認したいと思います。また同じような表紙の表現で、「酒田っ子すくすくプラン」ということで表示なるのでしょうか。

**家庭支援係長** 最終的に計画を策定するにあたっては、「酒田っ子すくすくプラン」と表記しますし、パブリックコメントの段階でも、表記しても差し支えないかと考えていますので、そのようにしたいと思います。

**宮田浩一委員** 分かりました。続きまして、15ページ施策の方向性2、子ども・子育て支援の充実に、16ページの課題の3番目に、保育士等の人材確保についていろいろ載っておりました。この中で、以前の会議でもいろいろお話しさせていただきましたけれども、例えば、いま学校改革等で非常に熱心な南校の中原新校長先生や、それから東北公益文科大学の理事長として、いま学生募集、学校の経営改革に一生懸命取り組んでおられます平田牧場の会長が在任中に、ぜひ保育機関のカリキュラムの設置を打診してはどうかということで提案さ

せていただいております。幼稚園関係の皆さんが、以前副市長に陳情した際にも、結果として2億から3億円程度が必要だということで、中座しているようにも聞いておりますけれども、その後市独自の保育士の育成機関づくりに対する見通しはどのようなのでしょうか。併せまして、例えば保育士さんが結婚して辞めたとか、子どもさんができて辞めたとか、中には子育てが終わってまた現場に戻っておられる保育士さんもいると思いますけれども、潜在保育士のデータ化といいますか、再度現場に復帰できるような、そういう資料を行政の方で作っているのかどうか、その辺も確認させていただきたいと思います。

もう一つ、先ほどあいさつでもありましたが、酒田が住みたい田舎全国1位というのが、昨日の山形新聞にも載っておりました。私も、非常にいい結果だなと思って、いろいろ報道機関の内容をみておりましたけれども、32ページの施策の方向性6、男女が子育てしやすい就労環境づくりでの、「職場において育児休業制度等仕事と家庭の両立支援制度が整い、働き続けやすい環境が整っていれば、継続して就労していた」という人の割合が結構多いところでありますので、酒田市自らが働き方改革の一環として、モデル企業へのアプローチをすることによって、また住みよい田舎全国1位がさらに推し進められるような、そういう効果が得られるのではないかと考えておりますので、この二つをお願いしたいと考えております。

**子育て支援課長** 人材確保に関連して、保育士養成校としてのカリキュラムの設置について打診してみてもどうかということと、市独自の養成校づくりの見通しというお話がございました。保育士の養成校が地元にあるということは、学生にとっても、また保育施設にとっても大変有効だと言えらると思います。ただ、現在県内に保育士養成校が2校ございます。東北文教大学、羽陽学園短期大学の2校ありますけれども、少し足をのばしますと、仙台には東北福祉大学、あるいは仙台青葉学院短期大学、白百合女子大学などいろいろあり、実際我々もこうした養成校を訪問して営業活動も行っていますけれども、実際訪れて感じることは、意外に酒田市出身の在学者が少ないということです。昨年おじゃましたときには、県内の養成校と仙台の養成校の4校ほど合わせても1学年10数人位の人数でした。そういう意味では、もちろん東京など全国にそういった養成校は散らばっているわけですが、今後は高校生へのPRというのも大変重要になってくるだろうと考えております。本市独自の養成校づくりの計画は、現在のところございませんけれども、県内の養成校においても定員に達するのがなかなか難しいという状況もあるようです。仮に、本市に設置したとしても、学生の奪い合いになることも考えられると思いますし、そこまでリスクを負って設置することは難しいのかなと個人的には思っております。一方そうした中で、保育士の人材確保ですが、本市からも県内、県外の養成校で学んでいる学生へのアプローチ、そういったものもとても重要だと思います。それから、養成校にいらっしゃる先生方とのつながりというのも大事なだろうと考えております。酒田市においては、2年前から人材確保事業を行っておりまして、養成校の学生が夏休みに入った時期に、昨年ですと8月3日頃ですけれども、学生や保護者、高校生、それから先ほどお話しがありました潜在保育士も合わせた、そういった方々を対象にして、ガイダンスを行っております。ガイダンスというのは、酒田市内の保育園、認定こども園のブースを設けて、そこで園長先生や保育士の皆さんからお話ししていただくというような感じですが、そんなガイダンスを行

っておりました。また、併せて市内の保育施設への訪問なども行ってきたところです。今後も引き続き継続していく予定ですが、あわせて県内と仙台の養成校を訪問して、学生の状況、それから酒田市のガイダンスのお知らせなど情報提供を今後も行っていきたいと思っております。お答えになっているかどうかですが、そのようなことで人材確保については対応していきたいと思っておりますので、養成校設置については計画も行っていないというところで、とりあえずそういった形で事業を行っていきながら、対応していきたいと考えております。そういう意味で、潜在保育士へのPRについても、そういった場所でも行っていくということで考えております。

#### 保育主幹

酒田市自らが働き方改革として、モデル企業へのアプローチをすべきと考えるのがいかかでしょうかということでした。本計画にも、現在載せさせていただいておりますが、前回の計画にも、本市の取り組みとして、山形県の「やまがた子育て・介護応援いきいき企業」、昨年度までは「やまがたいいきいき子育て応援企業」への登録に力を入れてきております。今後もそちらの方針は変わっておりません。計画だけを見ますと分かりにくいかもしれませんが、山形県の制度である登録に力を入れているというのは、男性の育児休業の取得者が出た場合ですとか、小学校就学前の子どもを養育する女性を正社員として雇用した場合、非正規職員から正社員への転換なども含みますけれども、子育てを応援する企業の取り組みに対して奨励金が交付されるような制度になっております。本市独自として、こちらに登録していただいた企業については、建設工事における本市の総合評価落札方式というものがあまして、「やまがた子育て・介護応援いきいき企業」に登録した企業への加点措置ということも行っております。また、昨年度から、本市独自に女性活躍支援員を配置しまして、企業に対して制度紹介、意識啓発を行っており、「やまがた子育て・介護応援いきいき企業」や「やまがたイクボス同盟」への登録を促進しています。その結果、「やまがた子育て・介護応援いきいき企業」については、第1期酒田市子ども・子育て支援事業計画策定時は32社でしたけれども、令和元年度の10月現在では、135社という形で飛躍的に増加している状況です。今年2月、これからになりますけれども、国の制度を活用して、保育所、認定こども園を含む中小企業の事業主向けに、子育てと育児の両立支援を応援しますということで、セミナーと相談会を予定しております。今後も、子育て世代が働きやすい環境づくりに取り組んでいくことは、本市の魅力アップにつながると思いますので、引き続き啓発等に努めていきたいと思っております。

#### 白旗会長

ほかに、ご質問、ご意見等はございますでしょうか。

#### 石川雄一委員

先月、山形県の「子育てするなら山形県」の会議に行ったときに、メディアに対する子どもたちの影響ということが話題に上がりました。その中では、基本施策4の74ページから79ページにまたいで、メディアへの過度な依存による弊害について啓発し、地域、学校、家庭における情報モラル教育の啓発というのがありますが、私の周りでも聞くのですが、幼稚園や保育園の保護者の間でも、子どものメディア依存、癖になってずっと見るという話もよく聞きます。子どもたちのメディアに触れる機会、その低年齢化が進んでいるという印象を受けました。ですので、メディアコントロールは、小学校以上では積極的

に展開しているという話はよく聞くのですけれども、もう少し早い時期、幼稚園・保育園の保護者にも幅広く情報提供して、どのような影響があるのかということをもう少し考えてもらう場を何かの形で設けてもらえたらなと思いました。あともう一つですが、基本施策2の「次代を担う若者を支援する環境づくり」で、59ページの「若者への就労支援」の具体的施策で、No. 62、No. 63の漁業また農業の後継者の育成とあるのですけれども、私の仕事柄、お客さんで豆腐屋さんが多かったですりしますが、そういった農業、漁業以外の他業種においても、経営者の高齢化によって、身内、肉親で継いでもらえる方がいないと周りでよく聞きます。その企業自体はいいものを作ったり、技術があるにもかかわらず、事業承継がなかなかできないという話も聞きますので、農業とか漁業にかかわらず幅広く、そういったところを、やっているのか分かりませんが、市の方でも洗い出してそれを若い方に継いでもらえるような事業があればなと思いました。

**子育て支援課長** メディアコントロールにつきまして、早い時期で考える場を設けてほしいということでご意見をいただきました。計画の中でどのような形で表現できるか検討させていただきますけれども、大事なことだと思っておりますので、対応できるような形で考えていきたいと思えます。二つ目の漁業、農業以外の継承についても、承りながら、担当課の方にもしっかりつないでいきたいと思えますのでよろしくお願ひします。

**石川正志委員** 55ページの具体的施策の47番などに、屋外の遊び場とか、保育所、自治会館、コミュニティセンター等の利用を推進します、という言葉があるのですが、私たち酒特のPTA活動をしようと思うと、障がい者用トイレの充実したところでないイベントができないということがあるので、ぜひそういった利用促進という部分と、地域の利便としてもそうですが、小さい子どもを連れて来るとおむつ交換をする場所がないというようなこともあり、障がい者用トイレの整備は非常に有用な手立てだと思えますので、ぜひそういった部分も推進するためのハード面の充実をお願ひしたいと思えます。

**子育て支援課長** まったくその通りだと思えます。障がい者用トイレの整備、ハード面の整備といったことも、しっかりと表現できるように考えてみたいと思えます。

**白旗会長** よろしくお願ひします。そのほか、ご質問、ご意見等はございませんでしょうか。  
先ほど、モデル企業へのアプローチ等宮田委員からございましたけれども、商工会議所さん、青年会議所さんの方からはご意見等ございませんでしょうか。

**庄司健委員** 今の話とは若干ずれてしまひますが、ニーズ調査が行われて、こういう施策が打たれていると思えますのですけれども、数値目標を見ても、どうしても3割から4割の方の不安だったり負担というのが解消されないように見受けられます。この施策をしなくても7割の人は困らないと思えますんです。あったらいいくらいにしか思っていないで、実際に困っている人というのはこの3割なわけで、3割の方に目を向けた施策というか、酒田市が抱える課題だったり、そこに重点的に目を向けた施策というのはどの部分なのかなというのを1点質問させていただきます。

**子育て支援課長** 困っている方への施策のところ、具体的に分かればということですが、考え方ということであれば、この計画の中でも3割の方に対する施策というのも当然大事になってきますので、具体的に指摘いただければお話しできると思います。具体的にもしあれば、教えていただければと思います。

**庄司健委員** 具体的にといいますか、私個人の意見ですが、この課題に関して問題の捉え方がちょっとずれているのかなと正直思います。例えば、44ページの「子どもが病気がちである」という部分で、多分これはハード面を充実させるという施策がすごく多いのかなと。結局医療を受けられる環境を増やせばこれは解消されるとは私は思わなくて、多分これはメンタルの部分だと思います。子どもが病気がちであるのであれば、病院に連れて行けば安心だとは親の気持ちはならないと思いますので、もう一步踏み込んだ施策があるといいかと。問題の捉え方が若干ずれているのかなと感じましたので、今から変えるのは大変だと思いますので、そういうふうな考え方を変えた行動を起こしていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

**白旗会長** 情報の周知というものが、具体的な施策の中で、76番や223番で出ておりますが、届いてほしい方になかなか届かないという状況もあるかもしれませんので、必要な支援を求めている方に届くような形で工夫するような取り組みを今後お願いできればと思います。

そのほか、ご質問、ご意見等はございますでしょうか。

**石垣紀子委員** 47ページの具体的な施策の16番、多胎児家庭へ支援員を派遣し、というのがありますが、先日の読売新聞で、厚労省が2020年度に多胎児家庭の子育て支援に特化した支援をしていくと発表したという記事を読みました。酒田市でも、多胎児家庭に支援員を派遣する以外にも特別な形で支援していくという考えが、いま現在あるのかどうかをお聞きしたいです。

**保育主幹** 多胎児の支援については、現在三つ子のお子さんが3歳になるまで、酒田市ではヘルパーのような形で支援員を派遣しております。実際に利用された方もありますし、先日は双子の家庭に拡充できないかという市議会での質問もありました。そこでは、酒田市では積極的に拡充策という形で広げていきたいというお答えをしております。

**健康課長** 私からも同じようなお話になりますが、多胎児の方については、妊娠中から一人の妊娠と比べると、検診なども少し回数が必要だということもあって、一人のお子様を妊娠したのに比べて支援が同じような回数ではというようなご要望なども寄せられておりますので、そういったところを市の独自の取り組みとしてどのような支援の拡充が可能かというところを内部で検討しているところです。まだ、具体的に対外的に発信する段階にはなっておりませんが、先般の議会においても多胎児支援の関係が少し話題になっておりますので、課内で検討させていただきたいと思っております。

**白旗会長** よろしくお願いいたします。  
ほかに、ご質問、ご意見等はございませんでしょうか。

**宮田浩一委員** 59ページの第4章次世代育成支援の施策の方向性2、若者の暮らしの希望がかなう環境づくりということで、高校生に対する意識調査の内容が載っておりました。これによりますと、多くが分からないと回答しており、この率をみますと60%位と計算しましたがけれども、やはり高校生になると進路、就職等で、どうしても自分の育った環境よりは、よそが良く見えるんじゃないかと思えます。私も現にそうでした。4年間学校に行って、帰ってくるかどうか悩んだときに、うちの父親からお前は長男だから帰ってこなきゃだめだと言われまして、その時は何も抵抗なしに素直に、はい分かりましたと帰ってきましたけれども、今の子どもたちは少ない中で、いろんな情報が得られて、自分の住んでいる町よりはよそがよりよく見える、これは当然だろうと思えます。ところが実際には、現実とのギャップが生まれてくるんじゃないかと。ですから、この分からないという回答者に、いかにふるさといいもんだ、酒田いいもんだと、日本一になった訳ですから、その辺でまた我々も行政などの機関、団体に頼るのではなくて、我々も市民の一員として、小学生から中学生、高校生を対象として、地元はいいよと、地元に残ってどんどん酒田を良くしようと、そういうふうな呼びかけをお互いにしていかなければならないんじゃないかと感じましたので、感想としてお話しさせていただきました。

**白旗会長** ほかに、ご質問、ご意見等はございませんでしょうか。ぜひ、お一人ずつお話をうかがえればと思っているのですけれども、高橋委員いかがでしょうか。

**高橋利春委員** 45ページにある、図表4-1-4で、子育てに関する相談ができる場所ということで、最後の方に、「相談できる場所がない」という数字が非常に大きいことに驚いています。というのは、地域で、各自治会や地域のコミュニティやらそういうところで、今こういうことをやっている所というのは少ないんですね。子どもたちの夏休みの宿題などを手伝ってくれるようなコミュニティセンターもありますけれども、それはほんの一握りで、こういう相談できる場所、夏休みの勉強の問題などいろいろあると思いますが、そういうところでもっと地域が協力できることがあるのであれば、この数字がもっと小さくなっていくかなとは思っています。そういうことで、そういう情報をもっと、地域や各自治会の方に、酒田市の方からある程度、一定の線はあると思いますが、その辺各地域の方に情報を流していただければなと思っております。

**子育て支援課長** 今のご要望につきましては、情報提供等しっかりと地域にできるような形で担当課の方にも伝えていきたいと思えます。計画の中にどのように入れていくは、こちらにお任せいただきたいと思えます。

**白旗会長** よろしくお願いいたします。  
ほかに、いかがでしょうか。



**伊藤直子委員** 子育てに関わっている年代の人たちというのは、こういったいろんな政策ですとか、情報などが保育園、幼稚園、学校を通して入ってくると思うのですが、子育てが終わった世代、私なんかの世代だと子育てが終わっていますので、これから孫を面倒見るといふか、またそこで関わってくる年代になっているんですね。そういった私たち位の年代の者が、この間も視察で保育園に行かせていただき、いろんなことがかなり変わっていてびっくりするばかりだったのですが、そういった子育てが終わってこれから孫も面倒見たいなという世代に対しても、何かこうアプローチといふか、また子育てに興味を持てるような何かそういったものがあつたら、もうちょっと積極的になって、地域だけでなくて家族の中で二世帯、三世帯という昔のような核家族でない、そういうものに戻すのも必要ではないかなと感じております。

**子育て支援課長** 一旦子育てが終わった方、子育て以外の方々への理解といふのは、本当に大事なのだらうと思います。どういう形で情報提供していくかはいろいろやり方があるのだらうと思います。計画の中にどのように盛り込むかは少し検討させていただきたいと思ひますし、今後の事業展開においても大変参考になりました。

**白旗会長** ほかに、ご質問、ご意見等はございますでしょうか。  
ないようですので、次に移らせていただいてもよろしいでしょうか。  
次に、(2) その他として、ご質問、ご意見等はありませんか。折角の機会ですので、委員の皆さまから情報提供など、何でも結構ですのでお願いいたします。  
無いようでしたら、以上で協議を終了いたします。委員の皆さまには会議の進行にご協力いただきありがとうございました。では、事務局へお返しいたします。

#### ～ 4 その他 ～

**小松課長補佐** それでは事務局からお知らせします。次回の会議は2月27日(木)午前10時から予定しております。ご案内については、あらためて文書でお知らせいたします。また、民間の組織からお出でいただいている方々には、報酬及び旅費があります。小さい封筒に内訳書を入れてお配りしております。およそ1カ月程度で指定口座へ振り込まれますのでご記帳のうえご確認ください。以上、事務連絡でした。皆さまから、ほかに言い残したこと等ございませんでしょうか。

#### ～ 5 閉会 ～

**小松課長補佐** ないようですので、長時間に渡りご協議をいただき、どうもありがとうございました。  
以上をもちまして、令和元年度第4回子ども・子育て会議を閉会いたします。お氣をつけてお帰りください。